

鋼管の更新に対する財政支援

【担当省庁】 厚生労働省

奈良県における取組

■ 管路更新計画

管路の更新には長期にわたり多額の費用が必要となるため、老朽度の評価とともに管路の重要度や漏水等の発生状況を考慮して管路の更新基準を定め、計画的に工事を実施するため平成27年度に「管路更新計画」を策定

【ダウンサイジングを考慮した計画】

○ 管路更新事業費の削減

	計画前
更新事業費	1,534億円
撤去事業費	138億円
合計	1,672億円



	計画後
更新事業費	1,038億円
撤去事業費	143億円
合計	1,181億円

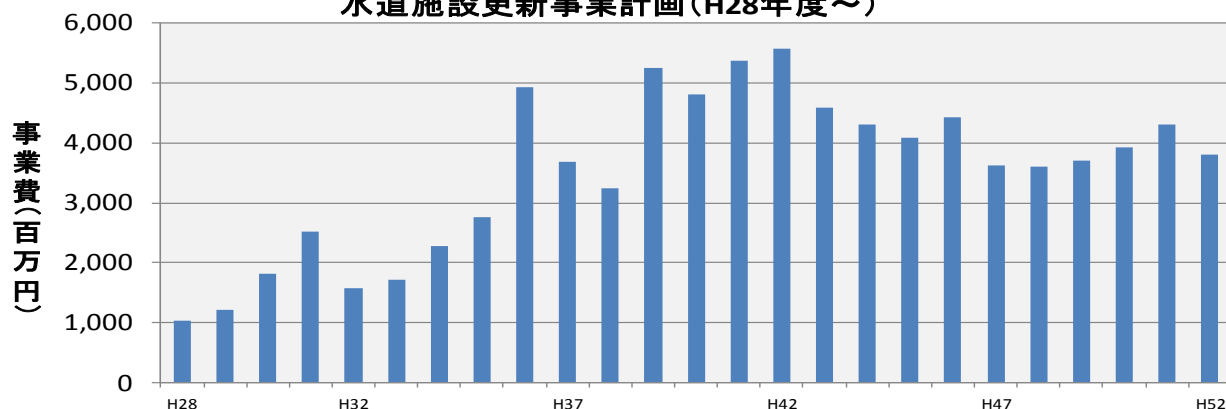
約491億円の
コスト削減

○ 容積率の比較 (H26年度末：導水管含まず)

	容積(m3)	比較(%)
現行	170,793	-
ダウンサイジング更新	88,203	51.6
容積比較	▲ 82,590	▲ 48.4

更新管の容積比は
▲48.4%削減

水道施設更新事業計画(H28年度～)



国にお願いすること

水道管路緊急改善事業の拡充

- ① 補助対象管種に**鋼管（小口径）**の追加
- ② 需要に応じた**所要額の確保**

現状と課題（背景・要望する理由等）

①耐震性能が低い小口径鋼管が補助対象外

小口径の鋼管は継手部（溶接）が腐食しやすく、経年劣化により漏水がしやすい。補助対象であるダクタイル鋳鉄管に比べ事故率が高く、本県においても漏水事故が頻発

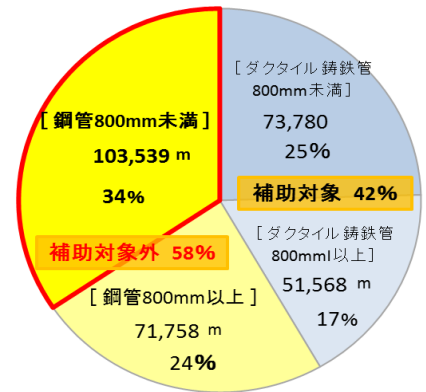
②補助対象外の鋼管の割合は約6割

本県では高圧送水の必要性から、全国平均より補助対象外の鋼管の割合が高く、補助金について他府県に比べ不利な状況

③管路更新の計画的な推進

今後、増大する管路更新事業を計画的に推進するための予算確保

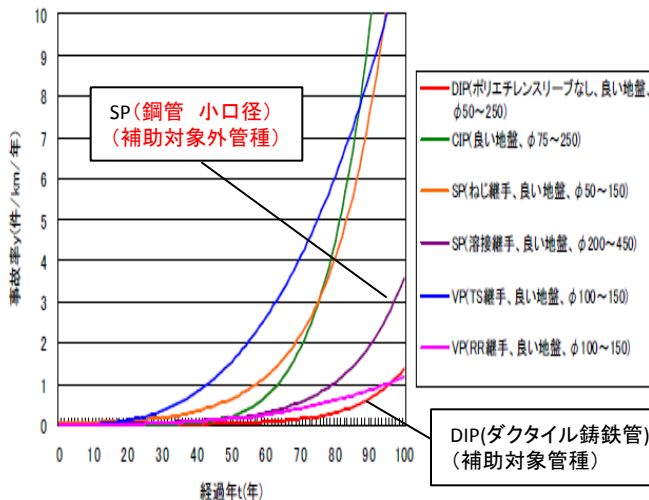
■奈良県の送水管路の状況



■全国平均(送水管・配水本管)
鋼管(補助対象外)比率 8%

■管路の事故率

管種別管路の機能予測式(出典:水道技術研究センター)



■劣化した管路



腐食し漏水している管路